

山行報告書

作成: 2008年08月20日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	大雪山、トムラウシ山	目的[方法]	お花見と百名山
期間	7月26(土) ~ 7月30日(水)	形態	縦走(避難小屋泊)
参加人数	2人		

行動記録:

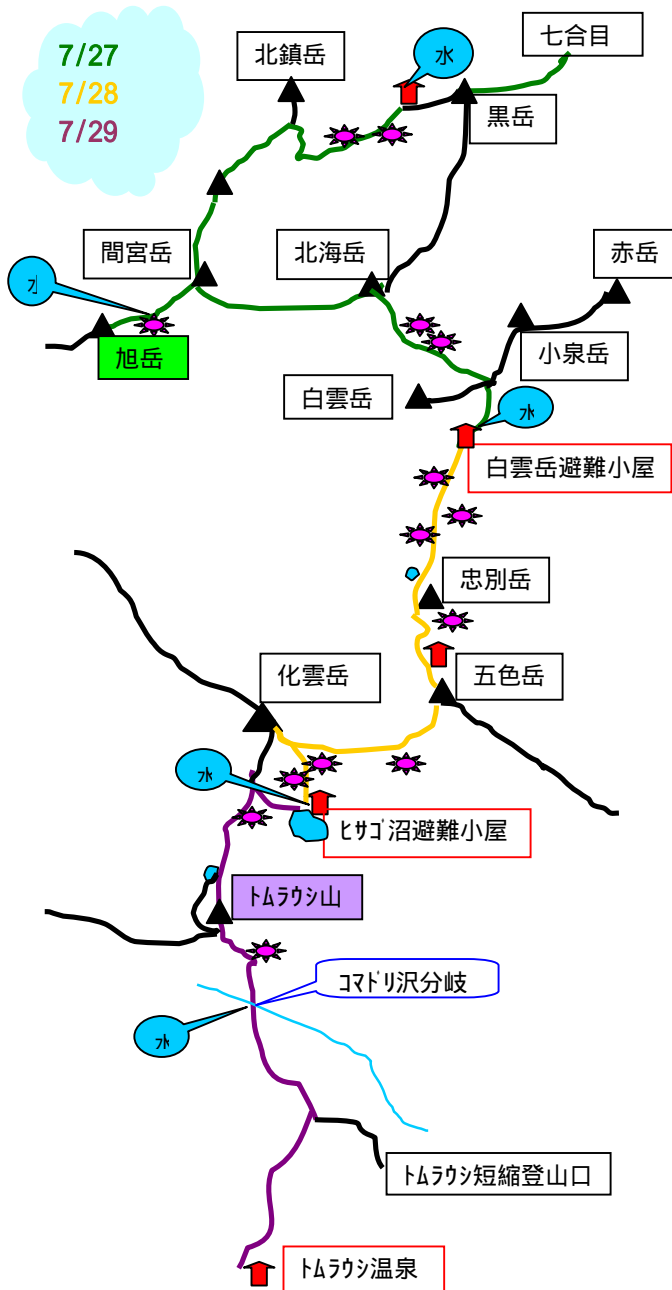
7/26(土) 晴れ 中部国際空港(1330) 旭川空港(1515,1540)***旭川駅(1610,1635)***層雲峡 BT(1825)--火祭り
見学(黒岳の湯)(1830,2200)--層雲峡野営場 TS1(2220)

7/27(日) 晴れ TS1(500,5:25)--セイコーマート(545,6:25)--黒岳ロープウェイ乗場(630,640)+7 合目(7:25,740)--黒岳
(855,915)--雲の平(昼食)--間宮岳(1245,1300)--旭岳(1350,1400)--間宮岳(1500)--北海岳
(1555)--白雲岳分岐(1655,1710)--白雲岳避難小屋(1730) TS2

7/28(月) 曇り時々晴れ TS2(600)--高根ヶ原分岐(700)--忠別岳--(1010,1025)--(昼食)--五色岳(1230,1240)--
化雲岳(1340,1400)--ヒサゴ沼避難小屋(1500) TS3

7/29(火) 晴れ TS3(545)--日本庭園--ロックガーデン(730)--トムラウシ山(900,945)--前トム平(1100,1120)--コマドリ沢
(1210,1230)--カムイ天上分岐(1350,1400)--トムラウシ温泉(1545) TS4

7/30(水) 晴れ TS4(600)トムラウシ温泉(845) **新得駅(1015,1035)++南千歳駅(1147,1158)++新千歳空港駅
(1201)--新千歳空港==千歳レラ(1315,1405)**新千歳空港(1415,1500) 中部国際空港(1640)



日誌:

7/26 23 の旭川空港は半袖では少し寒いくらいだ。バスで旭川駅、さらに乗り継ぎ Nさんと待合わせの層雲峡に入る。火祭りで野外広場には大勢の人がいたが直に会うことができたので食事をしながら装備・計画の最終確認した。黒岳の湯に入ってから見たアイヌ古式舞踊はじんわりと魂しいに伝わり重みも感じた。21:30 から始まるクライマックスの 2500 発の花火は 30 分間休むことなく渓谷に響き、ものすごい迫力で皆、歓声をあげていた。Nさんが明るいうちに幕営してくれていたため遅くまで楽しむことができた。R39 沿いの野営場に向かって 1km 程歩き、樹林の中の緩い坂道で今度は森閑の満天の星に感動した。4~5 台駐車されていて・水洗トイレ・炊事棟もある静かなところで登山者の基地としてありがたい。無料。

7/27 起床後すぐにテントを撤収し、前日下見した層雲峡のコビコ(5~24 時)は商品も充実していてテーブル席もある。朝食をとりロープウェイ乗り場に行くと売店には今年から飛行機への持込み不可の為にカートリッジとガスは一緒に売られていた。リフトを乗り継ぎ 7 合目で登山届けを済ませ、咲く花に癒されながらジグザクの急登を 2 回ほど休んで黒岳に着く。谷には所々雪が残る、たおやかな表大雪の山々が目に飛び込む。360° の壮麗な展望をゆっくり楽しみ Nさんと別れる。ハイジ気分的一面に咲く雲の平の花畠から北鎮岳を仰ぎ、間宮岳では Friendly な Hさんとベチャクチャし、旭岳まで雪渓と火山灰のザレた道をせせせと登った。山頂南西の十勝・富良野はガスがかかり残念であるが南の奥まったトムラウシ山は遙か遠くに望めた。ザレたところは V 字の溝を使いながら慎重に下り、戻れば台地に孤影とデボしたザックが

あるのみ。稜線の登りの風は冷たく、白雲鞍部までの雪渓花園や濃紫色のリシリソウが目に留まるも熊鈴を鳴らし足早に通過した。白雲岳分岐の道標でビニール傘を付けたザックと8時間ぶりの合流。待つこと10分…岩峰の白雲岳をピストンしてきたNさんに会えてほっとする。Nさんが歩いた赤岳や白雲岳の話をしながらし少し下れば白雲岳避難小屋。テントにはところ狭しとテントが咲き揃っていたので50人収容・トイレ有・協力費1000円を支払い本日20人の小屋を利用した。夏野菜とアールグレイのゆで豚をつまみに乾杯し、明日の行動水も煮沸して休んだ。(水場2~3分。白雲岳斜面の融雪水、秋に洩れる場合あり、冬の降雪が少ない年や猛暑の年は、8月以降要注意。)

7/28 13。高層に薄雲が見られる朝も晴天ペースで、遠く旭・白雲岳を幾たびか振り返り、トムラウシを目指し南進する。高根ヶ原ではシマリ・キタキツネを見かけるが熊が出没する三笠新道はしっかり閉鎖されたままであった。東に石狩、ニペソツを眺め、コマサ混じりの多種多彩な花が咲く広大な縦走路は続いた。忠別沼に薄橙色のイソゼンテイカが咲き、忠別岳から道標のない分りにくいところ(左側は廃道か?)進行方向右側を下ると雪渓沿いにイソハクサンイチゲ・チングルマ・イソゴサクラが咲き乱れ、Nさんのデジカメも忙しい。五色岳まではハイマツが覆い、登りきると沼ノ原からの登山者が多く、団体さんの情報も入ったので先を急ぐことにした。さらにハイマツの群生を抜け湿原に出ると木道が走り、大小の池塘と花ある化雲平の背景に憧れのトムラウシ山が迫る。化雲岳から少し下り、小屋へと続く辺りは神遊びの庭と称され雪渓と花に景福した。眼下にはヒサゴ沼、避難小屋が見え、木製階段がついているので雪泥の心配なく歩けた。40名の無料の小屋・トイレ有はほぼ定員。テントでは団体さんの大きなテントも含め満杯状態。青瑠璃色の澄んだ沼の静かなほとりで、Nさん持参のビールとお酒(男山)は雪で冷やし、黄昏ゆくまで夕食をとる。Hさんはこの沼で泳いだとデジカメを見せてくれたり、煮沸する代わりに早くて効果的な水殺菌剤「Micropur forte」を使っていた。垂直な小屋の鉄梯子を上り、少し余裕のある2階で休んだ。(水場まで3~4分。雪渓(万年雪)の融雪水で洩れることはないそうだが降雨後のテントサイトのぬかるみがひどいらしい。)

7/29 4時起床。最後までテントを担ぐNさんに感謝し、軽くなったザックを背負って、朝一番はふみ跡ある急な雪渓を慎重に登る。(昨夕は凍っていたそうを下りであれば軽アイゼン必要か)トムラウシを目指し尾根縦走路に乗れば沼と岩が点在する日本庭園で、穂になったチングルマとアオノツガサクラが沢山咲いていた。進めば見渡すかぎり岩となるロックガーデンは、しるしが少ないので悪天時はかなり気を使いそうだ。岩を乗越し北沼への緩やかに登り、山頂をピストンしてきた空身のHさんにすれ違う。天人峡経由で下山するそうで再会を願って別れた。再び歩くと透き通る青い北沼から先は大きな岩がゴロゴロして傾斜もきつくなるが、時折、花のブーケに足を留め、幾筋かあるよく踏まれた岩を探しながら登りつめた。真っ先に十勝連峰を眺め、珈琲を飲みながら心ゆくまで遠望を楽しみ、賑やか山頂を後にした。花のトムラウシ公園まで下ると南斜面は日差しも強く暑い。前トム平から岩をトラバースぎみに下るとイソマツ・タケカンバの樹林帯へ入る。コマドリ沢は冷たい水が流れ、ザックを下ろし木陰で休むのによい所である。ここから急登の階段で再びしっかり汗をかくと笹が刈られた幅広の登山道になる。緩やかに下るので足に優しいが、徐々にぬかるみ、温泉に下る短縮コース分岐を越えてもまだしばらく続いた。カラフトイチャクウを見かけたのが最後に倒木が多くなるといったん林道に出るがそのまま登山道を進むと東大雪荘が見えて終了となる。一軒宿の天然温泉は湯量もく、広くてゆっくりできた。食事は14時まで夕食は宿泊客のみ。

7/30 前日予約したバスに乗り、新得駅で特急「おおぞら」に乗り換え空港駅で下車。紹介して貰ったお店を探し、鮮度のよい北海道のお寿司を味わい、Nさんと別れた。仕事が忙しく残業続きのNさんが2年越しの約束を守ってくださったお蔭でまたひとつ忘れ得ぬ山旅となったことを感謝し、一足先の便で千歳空港を後にした。

上記以外で見かけた花…イソマルバシモツク・シラネニンジン・タカネウチソウ・ワタスゲ・イライチヨウ・イソウメバチソウ・カラムツソウ
イソウサギキク・チシマキンレイカ・メアカンキンバイ・コガネキク・タカネシオガマ・ウスキウヒレン・イワフクロ
イソツツジ・チシマツガサクラ・ミヤマサワアザミ・ヨツバシオガマ・イソノツガサクラ・カラフトゲンゲ・ハクサンチドリ
イワキキョウ・チシマキキョウ・イソオヤマノエンドウ・ミヤマリンドウ・イソヒメクワカタ・チシマフウロウ他

現地交通費…旭川空港～旭川駅～層雲峡バス(570円+1920円) ロープウェイ・リフト1400円
トムラウシ温泉～新得バス2000円 新得～新千歳空港 JR4260円

感想:

前夜祭と思われるほど幸先のよいスタートで始終好天に恵まれ、風光明媚で広大な百花繚乱の縦走路は他にあるのだろうか。花の最盛期は7月初旬頃のようなのですが、それでも充分満悦することができた。山小屋は極めて少ないので、テントがあれば余裕ある山行になるでしょう。表大雪は原始性高く、特殊な技術を要することもなく、深い自然体験が得られるのが大きな魅力です。反面、ある事故からその体験を得るには危険性が伴うことを忘れてはいけないと再認識した。